



GALLERY OMMADAWN

(ギャラリー オマドーン)

宮本町の住宅街にたたずむ築90年の木造家屋を改装し、ギャラリー兼カフェとしてオープンしたギャラリー オマドーン。外観は日本家屋の趣をそのまま残し、一步足を踏み入れると木のぬくもりと美しい漆喰の壁、高い天井の開放感が調和した空間が迎えてくれる。

元々この古民家は昭和26年から同27年までの約2年間、桐生商工会議所第4代会頭を務めた海野幸世氏の住まい。戦後復興の兆しが見え始めた当時、桐生の経済界を支えた産業人ゆかりの家屋である。そんな桐生にとっては歴史的にも価値ある和風建築を、平成27年10月、ギャラリーとしてリノベーションしたのは、鉛筆幻燈作家のこんの純一氏。こんの氏の奥様が海野氏の孫にあたる縁から、空き家となっていたこの家を「人が集まれる場所にしたい」という家族の想いを受けて、ギャラリーとして新しい命を吹き込んだ。

天井の梁と漆喰の壁が作品を引き立てるギャラリースペースでは、企画展が1から2ヶ月周期でテーマを変えて開催されており、入場無料で気軽にアートに触れる場を提供してくれる。カフェスペースも併設され、こんの氏が入れるドリップコーヒーや紅茶でアートの余韻に浸らせてくれる。もちろん、カフェのみの利用も歓迎していて、古民家ならではの落ち着いた雰囲気の中、極上の「やすらぎ」を堪能することができる。

ギャラリー名「オマドーン」は、こんの氏のお気に入りであるイギリス人ミュージシャン、マイク・オールドフィールドの楽曲に由来する。散りばめられた音が独特の浮遊感を醸す曲のイメージと、アート、カフェ、古民家といった要素が絶妙に交じり合うギャラリーのイメージが不思議と重なる。また、ギャラリーのロゴには、こんの氏が好んでモチーフにする月があしらわれ、ギャラリー名、コーヒーと共にこんの氏の「お気に入り」がギャラリー全体を演出している。東京出身のこんの氏は「桐生は歩く面白いまち」と印象を語るが、オープンから1年半のオマドーンは、すでに「桐生を歩く理由」としてその存在感を放つ。

桐生を支えた産業人ゆかりの家屋
リノベーションでアート×憩いの場へ

- 住所／桐生市宮本町1-4-13 ●電話／090-9958-0273 ●営業／土曜・日曜 12:00~18:00
- HP／<https://ommadawn.jimdo.com/>